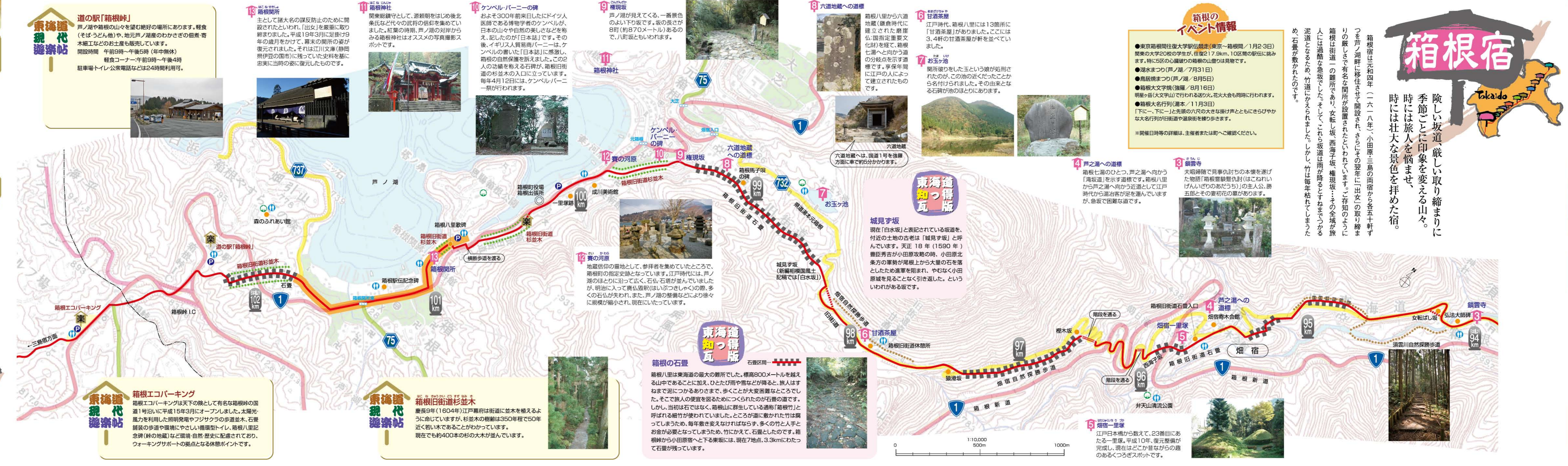


てくてく 東海道 宿場探訪マップ



STEP 5 小田原宿 箱根宿



道の駅「箱根峠」

芦ノ湖や箱根の山々を望む絶好の場所にあります。軽食(そば・うどん他)や、地元芦ノ湖産のわかさぎの佃煮・寄木細工などの土産も販売しています。

開設時間 午前9時～午後5時(年中無休)
軽食コーナー 午前9時～午後4時
駐車場トイレ公衆電話などは24時間利用可。



箱根関所

主として諸大名の謀反防止のために開設されたといわれ、「出女」を厳重に取り締まりました。平成19年3月に足掛け9年の歳月をかけて、幕末の関所の姿が復元されました。それは江川文庫(静岡県伊豆の国市)に残っていた史料を基に忠実に当時の姿に復元したものです。



箱根神社

関東総鎮守として、源頼朝をはじめ後北条氏など代々の武将の信仰を集めていました。紅葉の時期、芦ノ湖の対岸からみる箱根神社はオスメの写真撮影スポットです。



ケンペル・バーニーの碑

およそ300年前来日したドイツ人医師である博物学者のケンペルが、日本の山々や自然の美しさなどを称え、記したのが「日本誌」です。その後、イギリス人貿易商バーニーは、ケンペルの書いた「日本誌」に感激し、箱根の自然保護を訴えました。この2人の功績を称える石碑が、箱根旧街道の杉並木の入口に立っています。毎年4月12日には、ケンペル・バーニー祭が行われます。



権現坂

芦ノ湖が見えてくる、一番景色のよい下り坂です。坂の長さが8町(約870メートル)あるので、八町坂ともいわれます。



六道地蔵への道標

箱根八里から六道地蔵(鎌倉時代に建立された磨崖仏・国指定重要文化財)を経て、箱根七湯へ向かう道標です。享保年間に江戸の人によって建立されたものです。



お玉ヶ池

関所破りをした玉という娘が処刑されたのが、この池の近くだったことから名付けられました。その由来となる石碑が池のほとりにあります。



芦ノ湯への道標

箱根七湯のひとつ、芦ノ湯へ向かう「滝坂」道を示す道標です。箱根八里から芦ノ湯へ向かう近道として江戸時代から湯治客が足を運んでいますが、急坂で困難な道です。



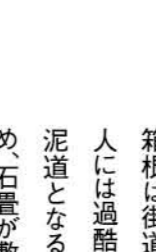
鎖雲寺

夫唱婦随で見事仇討ちの本懐を遂げた物語「箱根籠城」(はこねいげんいざりのあだうち)の主人公、勝五郎とその妻初花の墓があります。



甘酒茶屋

江戸時代、箱根八里には13箇所に「甘酒茶屋」がありました。ここには3、4軒の甘酒茶屋が軒を並べていました。



城見す坂

現在「白水坂」と表記されている坂道を、付近の土地の古者は「城見す坂」と呼んでいます。天正18年(1590年)豊臣秀吉が小田原攻略の時、小田原北条方の軍勢が尾根上から大量の石を落としたため進軍を阻まれ、やむなく小田原城を見ることなく引き返した、といういわれがある坂です。



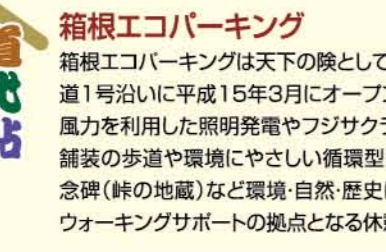
箱根の石畳

箱根八里は東海道の最大の難所でした。標高800メートルを超える山中であることに加え、ひとたび雨や雪などが降ると、旅人はすねまで泥につかるありさまで、歩くことが大変困難なところでした。そこで旅人の便宜を図るためにつくられたのが石畳の道です。しかし、当初は石ではなく、箱根山に群生している通称「箱根竹」と呼ばれる細竹が使われていました。ところが道に敷かれた竹は腐ってしまうため、毎年敷き変えなければならず、多くの竹と人手とお金が必要となりました。竹にかえて、石畳としたのです。箱根峠から小田原宿へと下る東坂には、現在7地点、3.3kmにわたって石畳が残っています。



箱根エコパーク

箱根エコパークは天下の険として有名な箱根峠の国道1号沿いに平成15年3月にオープンしました。太陽光・風力を利用した照明発電やフジサクラの歩道並木、石畳舗装の歩道や環境にやさしい循環型トイレ、箱根八里記念碑(峠の地蔵)など環境・自然・歴史に配慮されており、ウォーキングサポートの拠点となる休憩ポイントです。



箱根旧街道杉並木

慶長9年(1604年)江戸幕府は街道に並木を植えるように命じていますが、杉並木の樹齡は350年程で50年近く若い木であることがわかっています。現在でも約400本の杉の木が並んでいます。



箱根関所

横断歩道を通る

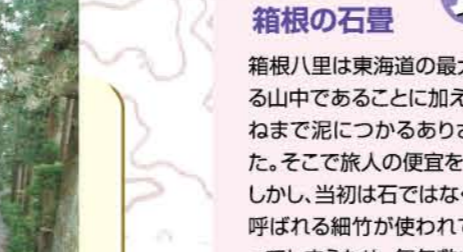
箱根八里歌碑

地蔵信仰の霊地として、参拝者を集めていたところで、箱根町の指定史跡となっています。江戸時代には、芦ノ湖のほとりに沿って広く、石仏・石塔が並んでいましたが、明治に入って廃仏毀釈(はいぶつきやく)の際、多くの石仏が失われ、また、芦ノ湖の整備などにより徐々に規模が縮小され、現在にいたっています。



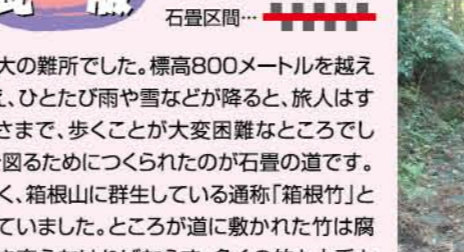
城見す坂

現在「白水坂」と表記されている坂道を、付近の土地の古者は「城見す坂」と呼んでいます。天正18年(1590年)豊臣秀吉が小田原攻略の時、小田原北条方の軍勢が尾根上から大量の石を落としたため進軍を阻まれ、やむなく小田原城を見ることなく引き返した、といういわれがある坂です。



箱根の石畳

箱根八里は東海道の最大の難所でした。標高800メートルを超える山中であることに加え、ひとたび雨や雪などが降ると、旅人はすねまで泥につかるありさまで、歩くことが大変困難なところでした。そこで旅人の便宜を図るためにつくられたのが石畳の道です。しかし、当初は石ではなく、箱根山に群生している通称「箱根竹」と呼ばれる細竹が使われていました。ところが道に敷かれた竹は腐ってしまうため、毎年敷き変えなければならず、多くの竹と人手とお金が必要となりました。竹にかえて、石畳としたのです。箱根峠から小田原宿へと下る東坂には、現在7地点、3.3kmにわたって石畳が残っています。



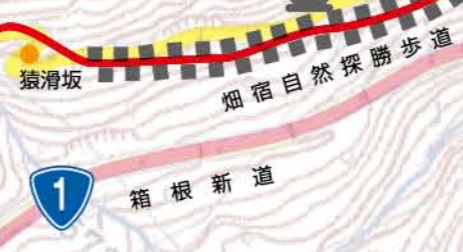
六道地蔵への道標

箱根八里から六道地蔵(鎌倉時代に建立された磨崖仏・国指定重要文化財)を経て、箱根七湯へ向かう道標です。享保年間に江戸の人によって建立されたものです。



お玉ヶ池

関所破りをした玉という娘が処刑されたのが、この池の近くだったことから名付けられました。その由来となる石碑が池のほとりにあります。



芦ノ湯への道標

箱根七湯のひとつ、芦ノ湯へ向かう「滝坂」道を示す道標です。箱根八里から芦ノ湯へ向かう近道として江戸時代から湯治客が足を運んでいますが、急坂で困難な道です。



鎖雲寺

夫唱婦随で見事仇討ちの本懐を遂げた物語「箱根籠城」(はこねいげんいざりのあだうち)の主人公、勝五郎とその妻初花の墓があります。



甘酒茶屋

江戸時代、箱根八里には13箇所に「甘酒茶屋」がありました。ここには3、4軒の甘酒茶屋が軒を並べていました。



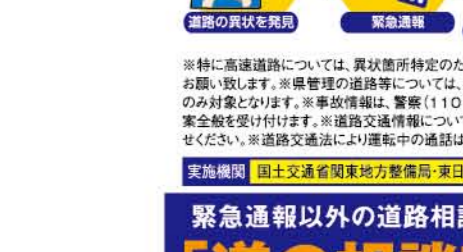
城見す坂

現在「白水坂」と表記されている坂道を、付近の土地の古者は「城見す坂」と呼んでいます。天正18年(1590年)豊臣秀吉が小田原攻略の時、小田原北条方の軍勢が尾根上から大量の石を落としたため進軍を阻まれ、やむなく小田原城を見ることなく引き返した、といういわれがある坂です。



箱根の石畳

箱根八里は東海道の最大の難所でした。標高800メートルを超える山中であることに加え、ひとたび雨や雪などが降ると、旅人はすねまで泥につかるありさまで、歩くことが大変困難なところでした。そこで旅人の便宜を図るためにつくられたのが石畳の道です。しかし、当初は石ではなく、箱根山に群生している通称「箱根竹」と呼ばれる細竹が使われていました。ところが道に敷かれた竹は腐ってしまうため、毎年敷き変えなければならず、多くの竹と人手とお金が必要となりました。竹にかえて、石畳としたのです。箱根峠から小田原宿へと下る東坂には、現在7地点、3.3kmにわたって石畳が残っています。



緊急道路緊急ダイヤル #9910へ (無料)

道路の異状を見つけたらご一報ください

緊急通報以外の道路相談は道の相談室へ
「道の相談室」 ホームページアドレス
<http://www.ktr.mlit.go.jp/honkyoku/road/michi/>

発行:国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所
〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町13-2 TEL045-311-2981

慶長六年（一六〇一年）、徳川家康が東海道の宿駅伝馬制度を定め、街道の整備を始めてから四百年あまりもの歳月が流れました。

慶長九年（一六〇四年）には、江戸日本橋が五街道の起点となり、その後、五街道を中心に、里塚や並木などの施設が次々と整備され、東海道は日本を支える大動脈として、人・物・文化の交流に大きな役割を果たしてきました。さまざまな歴史を運んだ東海道この道を歩き、踏みしめ、道が果たしてきた役割、これからの姿を見つめよう。



現在の道を守っています

かつての東海道は、現在国道1号や15号として、人の移動や物流を支えています。横浜国道事務所ではこれら神奈川県内の主要な国道（神奈川県内の国道延長の約4割にあたる約258km）を管理しています。道路を安全で快適に使っていただくために、日々の点検やトロールをはじめ、道路構造物の補修や修繕、清掃作業などを行っています。

宿場マップについて

東海道には53の宿場（神奈川県内では9宿）がありました。これらの宿場は旅の宿として繁盛し、現在もその周辺には当時の名残をとどめる史跡や名所が数多く残っています。そこで、このマップでは道中の見どころや自然、行事などを広く網羅して、歩きながら東海道の「むかし」と「いま」が楽しめるように神奈川県内の9宿を5冊に分けて編集しています。

なお、表示していますルートは概ね旧東海道に沿ったウォーキングルートであり、実際の旧東海道とは異なる場合があります。

小田原宿



10 小田原神社
小田原宿の総鎮守で、祭神は日本武尊。小田原北条氏の深い庇護により、隆昌しました。



17 徳常院
曹洞宗の寺院。境内には、江戸時代、箱根の賈の河原にあり、明治時代に移された地藏菩薩が安置されています。像は青銅製で、高さ5メートルにおよぶ大仏です。

13 小田原城
前身は、室町時代に大森氏が築いた山城。その後、戦国大名小田原北条氏、譜代大名大久保氏等、城主は変わりましたが、大いに栄えました。現在、城址公園である本丸・二の丸は国指定史跡として、銅門（あかがねもん）や馬出門（うまだしもん）などの復元整備も進み、当時の様子を伝えていきます。



14 報徳二宮神社/報徳博物館
報徳二宮神社は小田原の生んだ農聖、二宮尊徳（金治郎）翁を祀るため、明治27年（1894年）に創建されました。また、報徳博物館は幕末の疲弊した社会の再建人、尊徳二宮金次郎の、「報徳」と呼ばれる人づくり、国づくりの思想とその業績を伝える博物館です。
※毎週水曜日定休日



15 清閑亭
清閑亭は、明治末期から大正初期にかけて黒田長成侯爵の別邸としてつくられた邸園（建物と庭園）です。建物は国の登録有形文化財となっています。



16 居神社
板橋と山角町の氏神。境内には鎌倉末期の古碑群が残されています。



23 萬松院
徳川家康の嫡男平信康供養のために文禄元年（1592年）、小田原城主大久保忠世が開基しました。



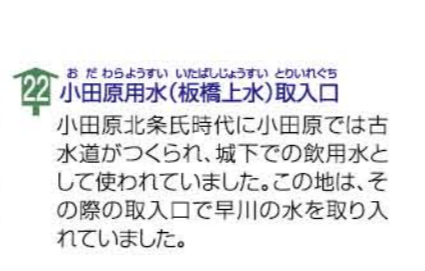
24 長興山紹太寺
黄檗宗の名僧鉄牛和尚が開山。小田原藩主稲葉正則は寛文9年（1669年）、城下の山角町（南町）にあった菩提寺を生田村に移し、長興山紹太寺を建立しました。稲葉一族の墓所や鉄牛和尚の寿塔があります。



20 古稀庵
明治の元勲山縣有朋が、明治40年（1907年）に構えた別荘で、「古稀庵」と命名されました。残念ながら当時の建物はありませんが、近代日本庭園の傑作といわれる庭園は毎週日曜日に参観できます。



21 板橋の地藏尊
「板橋のお地藏さん」と地元で親しまれています。永禄12年（1569年）香林寺九世の文察和尚が、湯本宿の古堂に祀られていたものを現在地に移転しました。



小田原箱根道路
西湘バイパス・小田原厚木道路と箱根新道を結ぶ国道1号のボトルネック解消を目的とした、延長約2.2kmの4車線バイパス道路です。



東海道 知っ版 外部博物館
「ういろう」はもともと外部（ういろう）家の約六百年前、外部家二代目自らつくって客の接待に供したお菓子がはじまりです。明治18年菓の意を利用した小さな博物館では、「ういろう」の名の由来、お菓子の由来、歌舞伎十八番「外部売」との関係などを知ることができ、また甘味喫茶もあります。



箱根新道（13.8km）が無料に
昭和37年に一般有料道路として供用を開始しましたが、平成23年7月の料金徴収期間満了に伴い通行料金が無料となり、現在は横浜国道事務所が管理を行なっています。無料となり料金金は撤去されましたが、自動車専用道路ですので、125cc以下の自動二輪や自転車、歩行者の通行は出来ません。

1 早雲寺
大永元年（1521年）、伊勢宗瑞（北条早雲）の遺命によりその子、北条氏綱が建てた京都紫野大徳寺派の名刹です。この寺には小田原北条文化の香りを伝える数多くの文化財が残されており、小田原北条文化を語るのに欠くことのできない寺です。



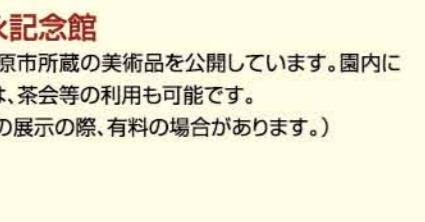
箱根七湯
箱根には17以上の温泉場があります。なかでも箱根七湯は江戸時代から賑わっている代表的な湯場で、筋肉痛などにも効能があり、衰えた足腰を休めるのに立ち寄ってみるのもいいでしょう。
※注 湯本温泉、塔之沢温泉、堂ヶ島温泉、宮ノ下温泉、底倉温泉、木質温泉、芦之湯温泉



小田原市郷土文化館
自然・考古・歴史・民俗の分野からなる総合博物館です。郷土をとりまく豊かな自然と、城下町・宿場町として発展した小田原の歴史や文化を紹介しています。
開館時間：9:00～17:00（観覧無料）
休館日：12/28～1/3
3月中旬～下旬（燻蒸作業による）



小田原市郷土文化館分館 松永記念館
電力王・松永安左エ門ゆかりの品々や小田原市所蔵の美術品を公開しています。園内にある国登録有形文化財の老梅荘や葉雨庵は、茶会等の利用も可能です。
開館時間：9:00～17:00（観覧無料。特別の展示の際、有料の場合があります。）
休館日：12/28～1/3



2 正眼寺
建立は鎌倉時代まで遡ります。江戸時代には、東海道を抜んで反対側に地藏堂もありました。慶応4年（1868年）、戊辰戦争の「箱根山崎の戦い」において敗走する遊撃隊の放火により、焼失しました。現在の本堂は、昭和7年に別荘を移築したものです。



箱根町立郷土資料館
館内には、江戸時代頃の境に現在の温泉観光地へと移り変わっていく様子、温泉開発などを絡めて紹介した常設展示室をはじめ、特別展や企画展を展示する特別展示室、約2万冊の参考図書を備えた図書室などがあります。
開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで）
休館日：毎週水曜日、毎月最終月曜日、12/28～1/4

小田原文学館
北村透谷、北原白秋、谷崎潤一郎、三好達治、尾崎一雄など、小田原出身及びゆかりの文学者の資料を展示しています。文学の町、小田原を物語る施設です。
開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）
休館日：12/28～1/3

